

学園報 第57号

発行・編集 学校法人皇學館 企画部  
TEL:0596-22-6496・8600

●大 学 大学院・専攻科・文学部・教育学部・現代日本社会学部  
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704  
TEL:0596-22-0201(代表) FAX:0596-27-1704  
●高等学校・中学校 三重県伊勢市楠部町138  
[高校] 〒516-8577 TEL:0596-22-0205(代表)  
[中学] 〒516-8588 TEL:0596-23-1398(代表)

# 皇學館



秋来ぬと  
目にはさやかに  
見えねども  
風の音にぞ  
おどろかれぬる  
藤原敏行

## 戦後七十年 館友戦歿者慰霊祭を齎行

七月二日、記念講堂で「戦後七十年館友戦歿者慰霊祭」が執り行われた。この慰霊祭には遺族、館友役員、理事長、学長、教職員、学生ら九百名以上が参列。学徒出陣し戦死した学生と館友(卒業生)戦歿者に哀悼の意を捧げた。

### 英霊の遺徳を偲ぶ

第二次世界大戦中の昭和十八年、神宮皇學館に在籍していた三三五名のうち一五一一名が学徒出陣し、二十三名が戦死した。特攻隊員もいたという。本学では戦後五十年、六十年の節目に学徒を対象



靖國神社の由緒について説く山口氏

(七月一日付で本学常務理事に就任)が「日本の繁栄と平和国家としての歩みは、先の大戦において祖國、故郷、家族を守るために一命を国家に捧げられた英霊の礎の上に」と代読した。

### 靖國神社の本質語る

慰霊祭の後、山口常務理事より「靖國神社の本質」と題した講話が行われた。氏は、冒頭で靖國神社を取り巻くマスコミ報道に触れ、今の報道の多くは、その起源から現在に至るまで、靖國の本質を捉えていない。真の姿を理解してほしい」と述べた。続いて「靖國神社は明治維新による戊辰戦争で、国家のために殉じた人々の御霊を祀る神社として建てられたのが

その後遺族を代表して樺大神社の山本行恭宮司が戦歿者に向けて玉串を捧げた。続いて佐古一冽理事長、清水潔学長、館友会・学生の代表も戦歿者を慰霊し、平和への祈りを捧げた。

はじまり」と神社の起源について解説。さらに、公に功績を遺した人々の御霊を慰霊・顕彰するのは日本古来の文化であることに言及し、明治天皇の勅令のみでいきなり建てたのではなく、民意として慰霊の思いを国家としてまとめたものと説明。そして、英霊を祀る基準は「国難に際して、尊い命を国家に捧げられた一点にある」と強く訴えた。また、「国家が戦地

## 人材育成・地域活性で協力

### 伊勢商工会議所と連携協定締結

本学と伊勢商工会議所は産業・観光・教育・文化等の分野で相互の機能向上、資源活用を図り地域の活性化と人材育成に貢献しようと、連携協定を締結。六月三十日に伊勢商工会議所において調印式が執り行われた。

「攻めの社会人養成講座」の開催をはじめ各種交流会や意見交換の場を設け、地域の活性化や人材育成に協働して取り組んできた本学と伊勢商工

業の振興及び創出による

## 地(知)の拠点

### アクティブ・シチズンの養成着々

#### 地(知)の拠点整備事業の現況

前号で詳細の通り、平成二十六年に採択された地(知)の拠点整備事業「伊勢志摩定住自立圏共生学」教育プログラムによる地域人材育成」は今年度に入り、講義科目の運用を始めた。履修登録をした学生は九十六名と目標であった一学年の半割に当たる七十名を上回り、構成は文学部が六五%、教育学部が九%、現代日本社会学部が二六%となっている。

学修活動は各市町担当者による講義のほか、クイズ、質疑応答、レポート提出が主。クイズではリモコン式回答ツールを使うなどICT(情報通信技術)教育の一面も有している。また、地域の拠点CLL(コミュニティ・ラーニング・ラボ)で



企画を練る学生たち

の活動も始まっており、志摩市の次世代協働プロジェクトMOTANI屋や玉城町の街づくりイベント・TMFなど七つの活動に参画している。学生たちが自らの学ぶ専門領域と地域の課題解決に向けた取組みとを結びつける視点を探求することで、アクティブ・シチズン(主体的に活動する市民)の養成を図る。今後は、地域でのアクティブ・ラーニング(体験型学習)を通じて、自らの学びを社会に還元できる能力を伸ばさせていく。

へ赴く人に対し、戦死したときに靖國神社へ御霊として祀ることを約束した」と話し、神社の存在が出征した人や遺族の精神的な支柱となってきたことを語った。講話では所謂A級戦犯が祀られた経緯、戦後の靖國神社などにも話題が及び、前権宮司ならではの詳しく分かりやすい話に参列者は熱心に聞き入った。

神道学科三年の日江井雄大君は「戦歿者の方々が国家のために戦われたという話が印象に残った。今までの認識の浅さを感じた」と話した。教育学科一年の村田真菜さんは「戦争を知る人が高齢化し、伝える人が少なくなってきた。私たちが正しい知識をもって伝えていかなければ」と表情を引き締めた。

**第1回 皇學館大学 地(知)の拠点整備事業 公開シンポジウム**

伊勢志摩で共に暮らし続けることのミライを考えよう  
次世代を担う若者が、自らの将来を描くとき、共有すべき地域の課題とは何なのか? 高校生と大学生そして伊勢志摩地域の若手職員が「オトナ」にはない感覚で考え合います。

日時: 9月4日(金) 13時30分~17時

場 所: 皇學館大学 6号館2階 621教室

参加対象: 学生・一般 ●参加費無料 ●事前申込不要

問合せ: 皇學館大学企画部 地域連携推進室  
☎0596・22・8635



調印書を手にする上島会頭(左)と清水学長

とができれば」と期待を述べ、上島憲会頭は「サミット開催を控えた今、伊勢志摩を世界に発信できるチャンス。学生の新しい考え方を取り入れ、地域の魅力づくりに取り組む」と意欲をみせた。

今後の具体的な連携事業としては、創業スクールへの参加や授業へのゲストスピーカー派遣、伊勢市産業支援センターと連携した学生の市内企業見学会などを予定している。また、地元企業へのインターシップ先の紹介、地元学生の地元企業就労支援、伊勢志摩地域の商工会議所・商工会ネットワークを活用した連携事業の検討等でも協力を仰ぎ、地域活性化や人材育成を一致団結して進めていく。

## 倉田山 春秋

柔道部・陸上競技部・硬式野球部が地方大会を制して全国大会へ出場を果たした▼中でも硬式野球部については多くの館友卒業生からも応援の声が届き、野球というスポーツへの関心の高さをうかがわれた▼日本の野球の歴史は学生野球の発展とともに歩んできたようだ。明治五年に現在の東京大学へ伝えたのはアメリカ人教師ホーレス・ウィルソンで、早稲田、慶應義塾、明治へと広がり、昭和二十七年からは大学野球連盟の全国大会が開かれるようになったという(日本大百科全書)▼当初は「ベースボール」と呼ばれていたが、これに「野球」という訳語を与えたのは正岡子規だという話がある。子規の幼名は「升(のぼる)」で、これをもじって「(野)」「ボール(球)」と名付けたというものである▼この話、真偽のほどは定かではないが、それほど子規の名は世に広く知られていたわけだろう。慣れ親しんだものほど、その起源は名の知られた人に仮託されやすい傾向がある▼平成三十二年に東京オリンピック・パラリンピック、三十三年に三重県での国体とスポーツの祭典が続く。本学園の学生生徒諸君の活躍が楽しみだ。

# 皇學館の名、全国へ

硬式野球部、柔道部、陸上競技部が日頃の練習の成果を見事に発揮し、全国大会出場という快挙を成し遂げた。



5回2死2塁、杉山君のタイムリーで2塁走者の福岡君が生還

## 初出場、初戦突破！福井工大を完封

### 全日本大学野球選手権大会 硬式野球部

#### 「伊勢の神宮から明治神宮へ」を合言葉に

森本進監督率いる硬式野球部(部員八十八名)が創部五十四年目にして初となる全日本大学野球選手権大会出場を果たし、初戦を突破した。

全国初勝利の相手は三十八回の大会最多出場を誇る福井工業大学。二年前に行われた練習試合では〇―二と大敗を喫した相手である。その福井工大と大会二日目、六月九日に神宮球場で対戦。エース・濱岡健士君(現代日本社会学科四年)が四安打無失点の好投で相手打線を抑え、一―〇で完封勝利した。

本学は五回表、福岡導大君(教育学科二年)の内野安打と矢野英太郎君(コミュニケーション学科二年)の犠打で二死二塁の好機を作ると、杉山由起君(現代日本社会学科三年)が左前にタイム

リーを放ち先制。これが決勝点となった。

力投で勝利を呼び込んだ濱岡君は初回、コントロールが定まらず、連続四球を与えるなどして一死二、三塁といきなりピンチを招く場面もあった。九回裏、福井工大の攻撃では二死フルカウントから四球で出塁。次打者にヒットを許し、走者一、二塁のあわや同点、逆転という緊迫した展開に。しかし、濱岡君は落ち着いた投球で最終打者をセンターライナーに打ち取ると、両手でガッツポーズ。駆け寄るメンバーとハイタッチを交わし喜びを分かち合った。

翌十日、ベスト8をかけた二回戦では昨年準優勝の強豪・神奈川大学と



濱岡君は特別賞を受賞

対戦。健闘及ばず〇―三で敗れたものの、初めて出場した全国大会で初戦突破という堂々たる成績を残し、神宮球場にその名を刻んだ。

東京入りする前に伊勢の神宮を、初戦前には明治神宮を参拝し、心を一つにして臨んだ大会だった。森本監督は「伊勢の神宮から明治神宮へ」を合言葉にやってきた。子どもたちにはここまで連れてきてもらって、本当

#### 球場や大学での応援熱く

記念講堂で実施されたパブリックビューイングには本学学生、教職員のほか一般市民など約百三十名が集い、ケーブルテレビZTV伊勢放送局の協力で設置された大型ス

クリーンで試合を見守った。神宮球場には伊勢市の鈴木健一市長も駆け付け、館友など約百五十名が熱い声援を送った。野球部OBで乃木神社に奉職する高山陽充氏(神道

六月二十八日、二十九日に日本武道館で行われた平成二十七年全日本学生柔道優勝大会に初のアベック出場を果たした本学柔道部。

## 男女共、来年に向け雪辱誓う

### 全日本学生柔道優勝大会 柔道部

戦敗退となった。「男女で入賞することを目指して練習を重ね、この大会に臨んだ」と悔しそうに話すのは主将の稲田達哉君(教育学科四年)。それでも、創部初の男女揃っての全国大会出場に自信が付いたよう

選手たちは六月十一日に凱旋帰郷。小雨が降る中、記念講堂前でバスから降りる森本監督、天満主将らメンバーを教職員や学生が拍手で出迎えた。大会前の壮行会で「新しい時代の幕開け。日々積み重ねてきた練習の成

果を生かし、平常心で戦ってほしい」と選手たちを送り出した清水潔学長はその言葉通りの活躍を

見せた部員たちを労い、健闘を称えた。【4.5面に関連記事】



次鋒戦に出場した太郎丸君

## 男子十種・乾君、無念の棄権

### 日本ジュニア陸上競技選手権大会 混成競技 陸上競技部

五月に開催された東海学生対校陸上競技選手権大会・男子十種で三位に入賞した乾颯人君(教育学科一年)は六月五日から七日にかけて岐阜で開催された第六十八回西日本学生陸上競技対校選手権大会(西日本インカレ)では六六九四点の自己新記録をマークし見事優勝。西日本で最も権威のある学生の大会でその実力を

二種目を終えた時点で無念の棄権となった。ケガを克服した際には皇學館の名を背負い、再び本領を発揮してくれるに違いない。

## 三団体が 学長奨励賞受賞



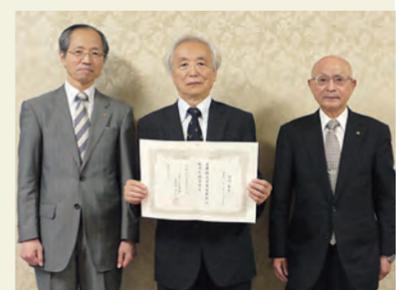
人に贈られる「学長奨励賞」を受賞した。授与式は七月十日に行われ、学長より賞状と奨励金の授与を受けた各団体の代表者は「今後の一層の活躍を期待する」との学長の言葉に表情を引き締め、さらなる高みをめざし、今後も日々精進していきたいと意気込みを語った。

## 宮川泰夫氏が名誉教授に

現代日本社会学部の初代学部長で同学部創設の最大の功労者である宮川泰夫氏に本学名誉教授の称号が贈られることが決まった。

宮川氏は平成二十一年四月に本学文学部特別招聘教授として着任。現代日本社会学部設立の構想から携わり、文部科学省との折衝をはじめ新学部創設に奔走された。翌年四月に同学部が設置されると初代学部長に就任。「天の時、地の利、人の和を大切に、現代日本が抱える課題を解決できる人材」の育成に心血を注がれた。氏の教育方

針のもと進められた研究と人材育成の成果はめざましく、平成二十六年三月に卒業した一期生からは三重県庁二名を含む九名が公務員に合格。二期生も九名が公務員となり、地域社会を担う人材の輩出に確かな実績を積み上げてこられた。



名誉教授の称号を授与された宮川氏(中央)

また、その幅広い人脈から財界、伝統文化に関わる多くの有識者を本学に招聘。本学と本学部の教育の質の向上に貢献されたほか、国際的に著名な地理学者でもある氏は本学に着任以降も研究に注力され、「文明と経済の相生」、「文化の深化と地域の革

新」を出版。研究者としても同学部を牽引し、さらには学部教員の学位取得、著書出版を積極的に推し進め、学部教員の質的向上にも力を尽くされた。今年三月をもって退職されたが、引き続き非常勤講師として本学部の教育に情熱を注がれている。

## 皇學館大学創立百三十周年・再興五十周年記念学術研究事業 神宮の研究をはじめ、長年の調査研究が結実

編纂した他に類を見ない学術書群として高い評価が寄せられている。詳細は次号に掲載する。

### 1 神宮の総合的研究

「神宮と日本文化」論文集  
「大神宮故事類纂総目録」「伊勢神宮研究文献目録」「荒木田経雅著作撰集」「久邇親王行実」

### 2 福祉と地域連携に関する総合的研究

「地域・福祉・文化」

### 3 儀式・神事・大嘗祭の研究

「訓読・注釈 儀式・神事・大嘗祭儀」

### 4 続日本紀史料の刊行

「続日本紀史料」全20巻

### 5 皇學館大学百三十年史の刊行

総説篇／資料篇(全3冊)／年表篇／写真篇／正誤並人名索引

創立百三十周年・再興五十周年の佳節にあわせ、長年取り組んできた研究の成果を書籍としてまとめるべく進められてきた周年記念学術研究事業。このほど最後の一冊が刊行され、全三十三冊の学術書として結実した。本学と精神的、学問的に縁の深い「神宮」の研究をはじめ、いづれの研究においても膨大な数の関係諸史料を整理し、

# オープンキャンパス2015 始まる

今年度第一回となるオープンキャンパス（「仕事」発見DAY）が六月十四日に開催され、およそ五百名の来場者で賑わった。

オープニングは田浦雅徳学生部長が務め、大学の概要や学生生活を紹介。本学を酒蔵に例えるなどユーモラスな語りに参加者の緊張もほぐれた。

## 「学生相談カフェ」なるには塾が盛況

とりわけ盛況を博したのは「学生相談カフェ」

だ。六号館一階のラウンジには多くの参加者が立



現場の話が聞ける貴重な機会となった「なるには塾」



トレードマークであるピンク色のTシャツを着て、参加者の学生スタッフ

晴天に恵まれた八月二日の日曜日、今年度一回目の「オープンスクール」皇學館を楽しくしよう。皇學館高校・中学校合同で開催され、県内各地から一三五〇名が参加した。

午前の部では、まず各学校と入試の説明が行わ

れ、学校説明では中・高の校友会の生徒自らが学校の魅力をプレゼン。続いて、中学校・合唱部による合唱と高校・吹奏楽部によるミニコンサートが開かれた。その後、中に分けられ、生徒の案内による校舎見学、学食体験が行われた。

午後の部は、高校ではクラブ体験、中学では五教科の体験授業が行われた。また、一回だけの特別企画として皇學館大学の説明ブースが設置され、内部進学に興味のある生徒や保護者らが熱心に質問や相談をしていた。津市から参加した男

子中学生は「教師をめざしており、大学進学における支援体制がしっかりしているところに惹かれた」と語り、明和町の女子中学生は「少人数制の授業や、語学教育に力を入れているところが魅力的。在校生徒が明るくハキハキしていて、自主性をもって学校生活に取り組んでいることが伝わってきた」と語った。次回は、中学は九月二十七日、高校は十月四日の開催を予定している。



中学校で行われた数学の体験授業

# 中高合同でオープンスクール開催

## 書道上小倉准教授が文化新人賞受賞

このたび「平成二十六年度愛知県芸術文化選奨」に本学で書道を教える国文学科 上小倉一志准教授が推薦され、芸術文化の向上に将来にわたって貢献することが期待できる個人または団体に贈られる「文化新人賞」を受賞した。

上小倉先生が書に出会ったのは中京大学時代。植本樹郎氏の書道の授業を受け、その字の強さに魅

せられた。同大学を卒業後、筑波大学大学院に進み、学ぶ傍ら書家（雅号・積山）として活躍。平成十八・二十二年に日展において入選を果たすと、同二十五年には第三十回読書法展読売新聞社賞、同二十六年には第六十四回中日書道展記念賞、改組新第一回日展に入選するなどさまざまな功績を挙げている。



大村秀章愛知県知事(左)と記念撮影

後進の育成・指導にも優れた手腕を発揮し、本学書道部の学生が一万超の出品点数を誇る「全日本高校・大学生書道展」で最高賞の大賞を受賞したり、一昨年の読売書法展において過去最多の七名が

入選したのは既報の通り。「芸術は人々に感動と夢を与えるものでなくてはならない」との大村知事の言葉を少しでも実現することができるようこれからの努力していきたい」と上小倉先生。今後のさらなる活躍が期待される。

## TOEIC対策講座がスタート

経験豊かな専門講師による効率的な授業

（国文三名・コミ

企業の海外への事業展開が加速していることに伴い、高い語学力を備えたグローバル人材の育成・確保の重要性が叫ばれている。そこで、本学ではECC外語学院の専門講師を招いてのTOEIC対策講座（五〇〇点目標コース・二十コマ）を開講。五月九日に一回目の講座が開かれた。受講者については、まず二十五名がレベルチェックテストを受け、自身の英語力を確認。その上で十三名

七名・教育二名・現日一名）が受講手続をとった。英語力向上をめざし参加したというコミュニケーションシオン学科二年の塩崎幸さんは、「TOEIC受験に向けて自分でどう勉強すればいいのかわからず、受講を決めた。講義は問題を解くのではなく、実際に会話したりペーパーワークがあったりと試験に即した実践的な内容で、集中して取り組むことができた」と満足気に語った。

専門講師による質の高い講義を通して一人でも多くの学生が英語力をブラッシュアップできるように、今後も継続して開催する予定。

私たちが神道学専攻科では六月十三日・十四日の二日間、担任の木村徳宏先生と石井世津子神職養成担当課員引率の下、京都の六社を参拝見学した。十三日は八坂神社・賀茂別雷神社・賀茂御祖神社に、十四日には吉田神社・北野天満宮・松尾大社に正式参拝した。今回の参拝見学を通して学んだ二つのことをこれから生かしていきたいと考えた。

二つ目は実際に足を運ぶことの大切さである。日々、大学では多くの学びをしており、今回の経験は、それらの学びをより深めることにつながった。社殿建築や境内の雰囲気、神社と地域とのつながりといったものは、その地でなければ体験することはできない。実際に足を運んでみると、写真や文章からは感じ取れないものが必ずある。一年という限られた時間の中で充実した学びを得るために、積極的に行動し、成長の糧にしていきたい。



## 学びを深めた参拝見学

神道学専攻科 日野 新太郎

### 人事異動

〔内は旧職〕

採用 平成27年6月1日付

大学事務局企画部主任 大橋 結香

採用 平成27年6月30日付

大学事務局学生支援部 池山 幸志

採用 平成27年7月1日付

大学事務局学生支援部 長谷川 寛子

採用 平成27年7月1日付

大学事務局学生支援部 大井 恵子

採用 平成27年7月1日付

大学事務局学生支援部 藤原 正憲

# 天満敦紀 主将

# に



**天満敦紀**(てんま あつき)  
 教育学科4年。主将で二塁手。小学3年から野球を始め、中学生の時はクラブチームに所属。出身高校の「いなべ総合学園」におけるレギュラーとしての最高成績は東海大会ベスト4。今回の全国大会出場を受け、「高校時代の恩師がとても喜んでくれました」と語る。

## 本音で話しあったことで 信頼関係が深まりました

——辛かった時期という？

**天満**● 昨年の秋季リーグが下から2番目と不甲斐ない成績だったので、アルバイトを減らしてもっと練習時間を増やそうと提案したんです。僕としては部をいい方向に持っていきたいがための発言だったのですが、反発を招いてしまって……。でも、その時にみんなで徹底的に本音で話しあったことで信頼関係が深まりました。それからですね、チームが変わったのは、自分たちで決めたことは必ず実行しようと、普段の生活においてもしっかり挨拶する、皇學館の名に恥じない礼儀正しい振る舞いをするといった部訓をきちんと守るようになりました。すると段々練習時も声を大きく出すようになって、無駄口をきくこともなくなり、全員が真剣に取り組むようになりました。

## 1分1秒を無駄にできないので、 集中力がつきます

——練習といえば、専用グラウンドがないことも話題となりました。

**森本**● 昨春改修された近隣の市営倉田山球場で平日の夕方、3時間ほど練習させてもらえるようになりました。しかし、曜日によっては授業が終わ

るのが18時過ぎになったりと、どうしても全体練習の時間は限られるため、時間を有効に使う練習内容を選手たちと考え、実践してきました。また、練習の準備、グラウンド整備、後片付けも全員で行い、練習の移動もランニングで行うなど、選手たちが自主的に考え、1分1秒を無駄にしない集中した練習を行っていると思います。

**天満**● グラウンドでは誰一人として遊んでいませんし、練習も実践的、効率的な内容でした。たとえば、「ケースバッティング」では、「1アウト1、3塁、内野ゴロで1点を取る」と具体的に場面を設定するんです。そして、バッターがボールを打った瞬間走る、という練習を繰り返します。実際、東海大会で同じ状況になり、1点を取ることができました。

## 置かれた環境で ベストを尽くすのが プロフェッショナル

——限られた環境が、むしろ工夫につながるわけですね。

**森本**● 決して恵まれているとはいえない環境で練習してきた選手たちが神宮に行けたのは、本当に素晴らしいこと。「置かれた環境の中でベストを尽くすのがプロフェッショナル」と私は思うんです。まずは、今あるものの中で、精一杯努力する。試合中なら、場面場面に応じて、常に最適な方法を考え選択できる選手になろう。そうすれば、野球以外の他の場面でも必ず成功する考えが生まれるようになると思います。社会人になった時、おそらく全部が全部、自分が思い描いた素晴らしい環境ではないでしょう。そうした困難に直面したとき、この言葉を思い出し、実践してくれば、必ず良い方向に道は開けると信じています。



福井工大との試合に勝った瞬間、喜びを分かち合う演岡君たち

**天満**● この教えがあったからこそ、「投手を中心に守りぬき、足をからめて、チャンスは必ずものにする」という自分たちのスタイルにつながったんだと思います。正直、スーパースターがいるわけでもなく、ましてやバッティングに関しては、劣るくらいです。その中で勝つには、自分たちの野球ができるかどうか。大舞台で粘り強さを発揮できたのも、普段からこのスタイルを意識して練習や試合に取り組んできた結果だと思います。

## 目標を持って あきらめずに努力すれば、 結果は変わってくる

——天満君は野球部で学んだことを今後どのように生かしたいですか。

**天満**● 僕は教員をめざしているのですが、目標をもってあきらめずに努力すれば、結果は変わってくるということを身をもって体験できたので、子どもたちには、夢や目標を持つことの大切さを伝えていける教師になりたいと思います。

## また一からコツコツと 強いチームをつくれたら

——監督、今後の硬式野球部の目標をお聞かせください。

**森本**● 神宮で選手たちはいろんな経験をさせてもらいました。この経験を生かし、選手たちと共に、また、一からコツコツと強いチームを作っていけたらと思っています。



6月11日、無事に本学に帰学した硬式野球部員たち



全国大会出場の証である額縁を手に記念撮影



# 特別インタビュー 森本進監督 × 神宮球場へ心ひとつ

就任8年目にして硬式野球部を悲願の全国大会出場へと導いた森本進監督。  
監督と二人三脚でチームをまとめ上げた天満敦紀主将。

二人の目を通して、三重県リーグで下位をさまよっていたチームが  
大学野球の聖地・明治神宮球場に立つまでの軌跡をたどります。



**森本 進**(もりもとすすむ)  
平成20年に本学・硬式野球部監督に就任。度会町在住の57歳。宇治山田商業高校時代は後足の遊撃手として名を馳せた。阪急に2位指名されたが駒澤大学へ進学。社会人野球の国鉄名古屋(現JR東海)でプレーした後、平成2年に伊勢に帰郷。伊勢市の建築会社に勤務。

## 選手たちが一戦ごとに ものすごく成長してくれました

——全国大会出場を振り返って感想をお願いします。

**森本**●三重県リーグ、東海大会(代表決定戦)と選手たちが一戦ごとにもものすごく成長してくれましたね。全国大会では落ち着いて堂々とプレーしてくれて、非常に頼もしく思いました。35年ぶりに神宮球場に連れて来てくれた選手たちには、本当に感謝しています。

**天満**●入部したときは神宮に行けるとは思っていませんでした。信じられないというか、まさかという気持ち。あきらめず、チーム全員でここまで頑張ってきて本当に良かったです。

## あきらめず、 チーム全員で頑張ってきて 本当に良かった

——三重県リーグでは、コールド負けした試合もありました。

**天満**●鈴鹿大に1対8でコールド負けした後は、全員が意気消沈しました。しかし、他力ながら僅かな望みがあったので、四日市大との最終戦まで全力で戦おうと部員には伝えました。

**森本**●天満が優れているところは、最後までベス

トを尽くそうと、最終戦の四日市大との試合の前にある鈴鹿大対四日市大との試合を一人で見(偵察)行ったんですよ。鈴鹿大が勝てば優勝が決まる試合だったんですが、四日市大が勝って……いろいろな条件が重なり、最終的に皇學館大が勝率で上回り、東海大会へ進むことになったんです。そういった主将の熱意が選手たちに伝わり、最終戦の総力戦へとつながっていったんだと思います。

——活躍した投手の濱岡健士君は監督の「大学生の体を作れ」という言葉が転機になったと話していました。

→学園報53号参照

**森本**●濱岡が伸びると思ったのは、彼が1年生の秋だったか、ある試合で「濱岡行け」と指名したら、「本当に僕でいいんですか」と言ったんです。「投げたくないのか」と聞くと「いや、行きたいです」「投げさせて下さい」「試合で投げられることが、本当に嬉しいんです」と。結果、彼はメツ打ちをされるんですが、その試合がポイントだったのではないのでしょうか。高校時代、公式戦無登板という悔しさもあったんでしょう。彼の研究心、向上心、なにより自分がマウンドを最後まで守るんだという覚悟が、成長を後押ししたんだと思います。もともとコントロールは良かったのですが、大きく成長してくれて私としても非常に嬉しく思います。

## 監督の喜びとは、 選手たちの可能性に寄り添えること

——素養を見出し、潜在能力を引き出す秘訣は？

**森本**●選手たちが高い意識を持っているから、良い結果につながるんであって、秘訣なんてないですよ。今年の4年生も人数も10人ほどと少なく、正直目立たない学年でしたが、「素直で謙虚でまじめ」という伸びる要素を持ち、コツコツと努力した結果だと思います。天満にしても、本当に周りの状況に目を配れる選手で、私がいなくても適切な指示を瞬時に出せる、部に欠かせない存在だと思ったからこそ、主将に抜擢しました。実際、大きく成長し、素晴らしい活躍をしてくれました。選手たちの潜在能力は、本当に計りしれない。監督の喜びは、こうした選手たちの可能性に寄り添えることだと思います。

## お前を神宮に行った 最初の主将にする

——監督の言葉を聞いて、天満君はいかがですか。

**天満**●とても嬉しいです。じつは、監督に「お前を神宮に行った最初の主将にする」と言われたことがあって、胸に響きました。期待に応えたいと思ったし、一人で悩みを抱かえて辛かった時期も、この言葉がすごく励みになりました。



大会特別賞を受賞した濱岡君



初戦の福井工業大学戦には、卒業生などおよそ150名が全国から応援に駆け付けた



全国大会の開会式で挨拶に立つ天満君

皇高NEWS

# 女子は総合二位。四部が全国大会へ

## 第六十五回三重県高等学校総合体育大会



賞状と楯を手に記念撮影

五月二十九日から三十一日、昨年と同じく総合二位をにかけて行われた今年度の三重県高等学校総合体育大会。県内の高校のべ一三〇校から約一万六千名の生徒が参加し熱戦を繰り上げた同大会において、本校女子(全日制女子)の部が五十八・五点をマーク

全国高校総体出場者	
卓球部	女子シングルス 菅沼春菜
女子ダブルス	菅沼春菜・山口東美
バドミントン部	女子ダブルス 谷水亜里紗・齋藤 柚
剣道部	男子団体 井上夢斗 神田昌峰
	西村一真 栗原大祐
	和田吉勝 早川雄斗
	和田優人
弓道部	女子個人 川村ゆり
男子個人	池田雅基

# のべ三百名以上の保護者が参加

## 保護者対象 進路説明会

五月十六日の午後、本年度の三年生保護者対象進路説明会が開催された。ご多忙中にも関わらず、百名以上の保護者の皆様に参加していただき、有意義な時間となった。

第一部では進路指導部から入試の実際等について説明させていただいた。第二部では進研アドの河野政文氏が「子どもの進路について、保護者が知っておきたいこと」というテーマで講演。保護者は受験に対してどのような対応をすればよいかなど有益な情報を幅広くお話ししていただき、大変興味深く拝聴させて

いただいた。最後に学年の現況報告並びに進路に向けての話があり、説明会終了後も担任に相談する保護者の方がお見えになるなど充実した説明会となった。

また六月六日の午後から、一・二年生保護者対象進路説明会が開催され、二百名以上の保護者の皆様に参加していただいた。



昨今の入試事情を丁寧に説明

# 全員が校友会の一員

毎年、校友会総会には会員である全校生徒及び先生方が参加し、会費をどう使い分配するかを決定する。審議される内容は一見難しく、私たちが判断するのはまだ早いように思われる。しかし、クラブ費がどのように分配され、学校行事にどう運用され、どれ

くらいのかかるかを知らなければならぬ。校友会総会には、先生方もご参加いただき、ご意見を伺いたい。今年度は、先生方もご参加いただき、ご意見を伺いたい。

今年度は、先生方もご参加いただき、ご意見を伺いたい。

今年度は、先生方もご参加いただき、ご意見を伺いたい。



6月1日に行われた校友会総会

# 熱い声援響いたクラスマッチ

ソフトバレーボールとソフトボールの二種目に分かれた

クラスマッチが七月十四日・十五日の二日間にわたり行われた。両日とも各地で最高気温が三十五度を超える非常に暑い日となったが、生徒たちは暑さに負けない熱い声援を送り、クラスごとに同色のTシャツを身につけて全力で闘った。

新総務副委員長の村木彩里さんは「実際に自分自身が準備や運営に関わってみて、大変だったけど、こうした行事は多くの人たちの協力があってこそ初めて成功すると思うことがわかった」と感想を述べた。なお、ソフトバレーボールは二年二組が、ソフト

ボールは三年四組が優勝した。



どのクラスも全力投球!

ソフトバレーボールとソフトボールの二種目に分かれた

クラスマッチが七月十四日・十五日の二日間にわたり行われた。両日とも各地で最高気温が三十五度を超える非常に暑い日となったが、生徒たちは暑さに負けない熱い声援を送り、クラスごとに同色のTシャツを身につけて全力で闘った。

新総務副委員長の村木彩里さんは「実際に自分自身が準備や運営に関わってみて、大変だったけど、こうした行事は多くの人たちの協力があってこそ初めて成功すると思うことがわかった」と感想を述べた。なお、ソフトバレーボールは二年二組が、ソフト

# 計五名が教育実習&進路講話

今期は計五名の実習生が本校で教育実習に臨んだ。はじめは生徒たちや教職員との距離感がなかなかつかめずに躊躇する様子が見受けられた。しかし、指導教諭からアドバイスを受けた次第に生徒たちの輪の中へと積極的に入っていく、授業も事前準備した段階に基づいた

展開ができるようになっていった。また、セミナーホールを会場にした「進路講話」では、全校生徒を前にそれぞれが中高生の間に体験したこと、後輩に向けて参考としてほしいことなどが熱く語られた。中西洗介先生(国語)は「努力するために夢が必要」と話し、

中山幸美先生(国語)は「三の時に先生に悩みを相談し、解決へと導いてもらった経験が教師をめざしたきっかけ」と語った。山際弓絵先生(養護)は高校時代、部活と勉強の両立に努めたこ

とや、その科目のスペシャリストである学校の先生方に積極的に質問した方がいいこと、クラスや部活の仲間たちと団結して有意義な学校生活を送ってほしいといったアドバイスをした。



# 一年生がともやまで宿泊研修

一年生七十名が六月二十五日から二十六日にかけて、一泊二日の日程で「ともやま公園キャンプ村」へ宿泊研修に行った。以下に生徒の感想を紹介する。



外国語活動の様子

私はこの二日間を通して、志摩半島に浮かびあがる山や島の自然がとてもきれいだった。友達と二人で声を掛け合っていた海は、風も気持ちよかったです。大自然の中、班で作ったカレーライスや、全員で



# 先生に褒められた

一年A組 藤田 龍登

一日目、外国語活動で双六などをして英会話を楽しみました。シーカヤックではゴー

いしくできました。後片付けの時、食器や台所洗いなどを一生懸命にしていたら、先生が「龍登はきれい好きやね。大活躍やわ。ありがとう」と褒めてくださったので、気持ちよかったです。

二日目の校長先生の講話は教育勅語や合旨だけでなく、「古事記」や「日本書紀」などのいろいろな歴史的なお話もあって、とてもわかりやすかったです。

野外活動センターで一つ屋根の下で眠った一夜は、友達との距離がグーンと縮まった気がして嬉しかったです。スポーツレクでは、女子みんなが協力した大縄や、クラス一脚が楽しかったです。最高に楽しく、笑顔いっぱい

# 団結力を学んだスポーツ大会

七月二日にスポーツ大会が実施され、第二体育館でソフトバレーボールを楽しんだ。全員がカラフルなクラスTシャツを身に付け、一致団結して熱い戦いを展開した。

# つなぐ意識の大切さ

三年B組 音羽 拓実

自分にとって最後のバレーボール大会。昨年以上に楽しみ、クラスが総合優勝できる

ように全力で挑みました。自分だけでなく、誰もがその気持ちで臨んだと思います。結

果、自分たちのクラスは総合優勝することができました。どの試合も大接戦で何度も苦しみ、本当に変化でしたが、みんながボールをつなぐという意識が強かったため、優勝できたと思います。団結力がいかに大切かを学んだ、忘れられない大会となりました。体育大会や百人一首大会な

と今後の行事も今回の大会のようにつなぐ心を忘れず、全員で協力し「熱き思いを積み重ね、勝利を掴め」という三Bのクラス目標を達成したいと思います。



熱戦が繰り広げられた

# 平成26年度 収支決算報告

学校法人皇學館の平成26年度決算は、平成27年5月25日開催の理事会で承認されましたので、ここにその内容を公表します。

なお、公式ホームページ(<http://www.kogakkan-u.ac.jp>)の大学概要のIR情報の事業報告平成26年度にて、教育研究機関・事務組織・入学生数・在籍者数・卒業生数・進路(就職)状況及び法人の事業実績、財務の概要説明等を公開しておりますので、併せてご覧ください。

平成26年度収支決算書は、以下のとおりです。

## 1 資金収支計算書

この計算書は、企業会計におけるキャッシュフロー計算書に近いもので、当該会計年度の教育研究活動及びその活動に付随する全ての資金の動きと内容を明らかにすることを目的としています。

### 資金収支計算書(法人全体)

平成26年4月1日から平成27年3月31日 単位：千円			
科目	予算	決算	差異
<b>●収入の部</b>			
学生生徒等納付金収入	3,688,739	3,713,107	△24,368
手数料収入	77,083	88,145	△11,062
寄付金収入	108,368	121,925	△13,557
補助金収入	737,203	768,365	△31,162
資産運用収入	41,727	57,925	△16,198
事業収入	25,750	14,986	10,763
雑収入	196,362	219,928	△23,566
前受金収入	628,563	769,075	△140,512
その他の収入	488,516	502,027	△13,510
資金収入調整勘定	△808,528	△886,309	77,781
<b>当年度資金収入合計①</b>	<b>5,183,783</b>	<b>5,369,176</b>	<b>△185,392</b>
前年度繰越支払資金	1,688,684	1,688,684	
<b>収入の部合計</b>	<b>6,872,467</b>	<b>7,057,860</b>	<b>△185,392</b>
<b>●支出の部</b>			
人件費支出	2,828,878	2,791,895	36,982
教育研究経費支出	917,719	912,812	4,906
管理経費支出	437,977	453,082	△15,105
借入金等利息支出	4,332	4,331	1
借入金等返済支出	43,750	43,750	0
施設関係支出	109,502	100,138	9,363
設備関係支出	242,877	231,768	11,108
資産運用支出	435,895	436,550	△655
その他の支出	127,977	127,839	138
[予備費]	(0)		20,000
資金支出調整勘定	△152,018	△125,938	△26,079
<b>当年度資金支出合計②</b>	<b>5,016,889</b>	<b>4,976,230</b>	<b>40,659</b>
次年度繰越支払資金	1,855,578	2,081,630	△226,051
<b>支出の部合計</b>	<b>6,872,467</b>	<b>7,057,860</b>	<b>△185,392</b>
<b>当年度資金収支差額①-②</b>	<b>166,894</b>	<b>392,946</b>	<b>△226,051</b>

## 2 消費収支計算書

この計算書は、企業会計における損益計算書にあたるもので、帰属収入(負債とならない収入)から基本金組入額(施設や設備などの取得にあてる額)を控除した消費収入と消費支出を比較して均衡状況を明らかにすることを目的としています。

### 消費収支計算書(法人全体)

平成26年4月1日から平成27年3月31日 単位：千円			
科目	予算	決算	差異
<b>●消費収入の部</b>			
学生生徒等納付金	3,688,739	3,713,107	△24,368
手数料	77,083	88,145	△11,062
寄付金	115,868	137,812	△21,944
補助金	737,203	768,365	△31,162
資産運用収入	41,727	57,768	△16,041
資産売却差額	157	156	1
事業収入	25,750	8,225	17,524
雑収入	201,197	224,842	△23,645
<b>帰属収入合計①</b>	<b>4,887,724</b>	<b>4,998,422</b>	<b>△110,698</b>
基本金組入額合計	△236,506	△236,972	466
<b>消費収入の部合計②</b>	<b>4,651,218</b>	<b>4,761,449</b>	<b>△110,231</b>
<b>●消費支出の部</b>			
人件費	2,853,110	2,861,128	△8,018
教育研究経費	1,389,461	1,451,552	△62,091
管理経費	463,446	481,162	△17,716
借入金等利息	4,332	4,331	1
資産処分差額	7,294	7,982	△688
[予備費]	(0)		20,000
<b>消費支出の部合計③</b>	<b>4,737,643</b>	<b>4,806,157</b>	<b>△68,514</b>
<b>●収支差額の部</b>			
<b>当年度帰属収支差額①-③</b>	<b>150,081</b>	<b>192,265</b>	
当年度消費支出超過額	86,425	44,708	
前年度繰越消費支出超過額	3,901,616	3,901,616	
<b>翌年度繰越消費支出超過額</b>	<b>3,988,041</b>	<b>3,946,324</b>	

## 3 貸借対照表

この計算書は、決算日における資産及び負債、基本金、消費収支差額の内容及び在り高を明示し、学校法人の財政状態を明らかにすることを目的としています。

### 貸借対照表

平成27年3月31日 単位：千円			
科目	本年度末	前年度末	増減
<b>●資産の部</b>			
<b>固定資産</b>	<b>15,466,542</b>	<b>15,429,844</b>	<b>36,698</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>13,039,210</b>	<b>13,266,217</b>	<b>△227,007</b>
土地	551,349	551,349	0
建物	9,103,563	9,349,047	△245,484
構築物	637,539	676,391	△38,851
教育研究用機器備品	785,309	785,982	△672
その他の機器備品	76,572	50,941	25,631
図書	1,876,115	1,842,154	33,960
車輛	8,760	10,351	△1,591
<b>その他の固定資産</b>	<b>2,427,332</b>	<b>2,163,626</b>	<b>263,706</b>
電話加入権	3,959	3,959	0
有価証券	9,596	9,596	0
敷金	5,620	5,620	0
差入保証金	4,960	4,960	0
預託金	10,000	10,000	0
長期貸付金	3,437	3,986	△548
退職金引当特定資産	1,233,365	1,233,365	0
施設維持引当特定資産	628,674	438,674	190,000
学生寮施設維持引当特定資産	111,680	145,425	△33,744
学園財政調整引当特定資産	300,000	200,000	100,000
第3号基本金引当資産	116,040	108,040	8,000
<b>流動資産</b>	<b>3,238,179</b>	<b>2,994,639</b>	<b>243,539</b>
現金預金	2,081,630	1,688,684	392,945
補助活動支払資金	292,431	294,463	△2,031
研修旅行費等預り資産	123,300	123,418	△117
未収入金	174,649	325,193	△150,544
奨学金引当特定資産	21,376	11,438	9,937
販売用品	2,050	8,812	△6,761
短期貸付金	1,638	2,288	△650
篠田学術振興基金引当特定資産	67,336	66,120	1,215
津田学術振興基金引当特定資産	323,708	323,663	44
教学振興基金引当特定資産	150,000	150,000	0
立替金	56	0	56
前払金	0	556	△556
<b>資産の部合計</b>	<b>18,704,722</b>	<b>18,424,483</b>	<b>280,238</b>
<b>●負債の部</b>			
<b>固定負債</b>	<b>1,462,070</b>	<b>1,434,796</b>	<b>27,274</b>
長期借入金	131,250	175,000	△43,750
退職給与引当金	1,201,096	1,136,776	64,319
長期未払金	129,724	123,019	6,704
<b>流動負債</b>	<b>1,159,698</b>	<b>1,098,998</b>	<b>60,699</b>
短期借入金	43,750	43,750	0
未払金	118,677	125,309	△6,631
前受金	769,075	711,660	57,415
預り金	228,194	218,279	9,915
<b>負債の部合計</b>	<b>2,621,769</b>	<b>2,533,795</b>	<b>87,973</b>
<b>●基本金の部</b>			
第1号基本金	19,519,237	19,290,265	228,972
第3号基本金	116,040	108,040	8,000
第4号基本金	394,000	394,000	0
<b>基本金の部合計</b>	<b>20,029,277</b>	<b>19,792,305</b>	<b>236,972</b>
<b>●消費収支差額の部</b>			
翌年度繰越消費支出超過額	3,946,324	3,901,616	△44,708
<b>消費収支差額の部合計</b>	<b>△3,946,324</b>	<b>△3,901,616</b>	<b>△44,708</b>
<b>負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計</b>	<b>18,704,722</b>	<b>18,424,483</b>	<b>280,238</b>

●記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。  
●貸借対照表の注記は省略しています。



参拝後、清々しい表情の高校生徒

先生の説明に聞き入る生徒もいた。高校一年七組の上田直輝君は「皆と一緒に参拝するのは初めて。とても厳肅な雰囲気、一年生全員が同時に拍手した瞬間は身が引き締まりました」と感想を述べた。一年八組の岩城玲那さんは「宇治橋が日常から神聖な世界への架け橋であることや、船大工の技術が生かされ釘を一切使わずに建てられていると知り驚きました」と感じ入ったように話した。

「宇治橋が日常から神聖な世界への架け橋であることや、船大工の技術が生かされ釘を一切使わずに建てられていると知り驚きました」と感じ入ったように話した。中学校一年A組の尾崎開君は「五十鈴川の水で手を清め、真っ白いハンカチで拭いたらとても気持ちよかったです。神様に感謝の気持ちが伝わってほしい」と初々しく語り、一年B組の川添紗朱さんは「四月の参拝が雨で中止になり、今日が初めての神宮参拝。すごく緊張しましたが、四月の分も含め、しっかりと神様に日々の感謝を伝えることができました」と満足そうに話した。



宇治橋を進む中学校生徒

# 月次祭にあわせ 神宮参拝

六月十七日の月次祭にあわせ、中学校・高校の全生徒・教職員が神宮を参拝した。一年生にとって初めての神宮参拝であったが、神聖な雰囲気の中、正殿で無事に参拝を済ませることができた。

六月二十一日、寮生による寮生のための一大イベント・第五十四回寮祭が盛大に開かれました。今年も二年生も一年生と一緒に楽しみながら寮祭を盛り上げようと企画。当日は、各グループ毎に工夫を凝らしたムービーの上映や二年生がオリジナルの振付を考えたダンス、日頃の感謝の思いを



今年のテーマ「煌」が浮かび上がる感動のフィナーレ

伝えるメッセージがセールの催しでたくさん笑顔が咲きました。こうしてグループで協力し、支え合いながら準備を進めてきた結果、寮祭は大成功! 寮祭を通じて新しい友達ができたり、結束がますます強まったことを実感しました。楽しさを実感した一年生は、来年は運営スタッフとして、新入生をもてなしてくれることでしょう。寮祭で得たものは一生の宝物。この経験を生かし、様々な場で寮生たちが「煌」いてほしいと思います。

# 寮祭の経験生かし、煌いて

寮祭 行事担当 藤代葵紀 (神道学科二年)

# 卒業生奮闘中!

大西 正展さん ダブリン日本子女補習校 校長  
文学部国文学科 第8期(昭和48年3月)卒  
【連絡先】E-mail 0914monishi@gmail.com



アイルランドの首都で、今春より妻と第三の人生を歩んでいます。今年齢六十四を迎えますが、教育者としての締め括りをするためにダブリンに来ています。補習校は幼稚園を併設し、主に日本企業から派遣された家庭の幼小中の子女が在籍しています。アイルランドは英語圏であるため、子どもたちは平日現地校に通い、土曜日に本校で国語や算数・数学を学びます。始業前に子どもたちと朝の会を行います。日本国旗を掲げて校歌を歌います。私にとって日本を身近に感じる時間でもあります。アイルランドはイギリスの隣にあるケルト民族の国です。現在は英語が主要言語ですが、公務員になるにはケルト語が必修です。アイルランドの人たちの気質は日本人に似通っており、礼儀正しくとても親切で、よく挨拶をします。それは豊かな自然の中で暮らしているからなのかもしれません。本校はアイルランドの名門、トリニティ大学で学んでいる日本人学生にも授業を手伝ってもらっています。こちらの大学は入るのも難しく、また卒業まで行き着くにはさらに高いハードルがあります。ですから、彼女たちは非常によく勉強し、アクティブに生きています。また、過日ヨーロッパ最大規模の公園、フェニックスパークで開かれた日本大使館主催のエクスペリエンスジャパンに行き、明治神宮から語学研修に来ている若い神宮に偶然出会いました。外国人の来日が多くなったため、神宮も英語の習得が必要になっているとのことでした。シャムロックの国アイルランドの自然や人々との触れ合いを通して、人生のよい締め括りが出来ればと思っています。



トリニティカレッジにて

イベント情報(9~10月)

- 9月**
  - 5 土** 月例文化講座 431教室  
旅人の文学—熊野街道を行く— 高倉一紀(文学部教授)
  - 5 土** 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野  
1日・短期講習会 日本書紀を読む  
—仲哀天皇紀・神功皇后紀— 大島信生(文学部教授)
  - 12 土** 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野  
『古事記』(上巻)を読む  
「天石戸ごもり・天石戸開き」 白山芳太郎(文学部教授)
  - 12 土** みえアカデミックセミナー2015移動講座 熊野市文化交流センター多目的ルーム  
熊野権現と伊勢神宮 多田實道(文学部准教授)
  - 19 土** 研究開発推進センター史料編纂所古文書講座 佐川記念神道博物館講義室  
近世文書を読む 谷戸佑紀(研究開発推進センター共同研究員)
  - 26 土** 研究開発推進センター史料編纂所公開講座 佐川記念神道博物館講義室  
古代史書の世界 荊木美行(研究開発推進センター教授)  
遠藤慶太(研究開発推進センター准教授)ほか
  - 26 土** 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野  
神道と仏教—神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離—  
「能勢妙見山における神仏習合と神仏分離」  
河野 訓(文学部教授)
- 10月**
  - 3 土** 皇學館大学ふるさと講座 名張市役所 大会講堂  
「名張の自然環境」 外山秀一(文学部教授)
  - 3 土** 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野  
1日・短期講習会 古文書を読む  
—関ヶ原2ヶ月前の家康書状— 岡野友彦(文学部教授)
  - 9 金** 三重県生涯学習センター×皇學館大学 三重テラス  
うまし国伊勢志摩神話と日本文化  
橋本雅之(現代日本社会学部教授)
  - 10 土** 月例文化講座 431教室  
文学を旅するには? 岡野裕行(文学部准教授)
  - 10 土** 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野  
『古事記』(上巻)「五穀の起源〜八俣大蛇退治」 白山芳太郎(文学部教授)
  - 17 土** 研究開発推進センター史料編纂所古文書講座 佐川記念神道博物館講義室  
近世文書を読む 谷戸佑紀(研究開発推進センター共同研究員)
  - 17 土** 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野  
1日・短期講習会 『伊吉連博徳書』  
—初期遣唐使の記録— 加茂正典(文学部教授)
  - 24 土** 佐川記念神道博物館教養講座 佐川記念神道博物館講義室  
学芸員が語る三重の文化と魅力II  
「産業振興と博物館」 松月清郎(真珠博物館館長)
  - 24 土** 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野  
神道と仏教—神社仏閣に見る神仏習合と神仏分離—  
「貴船神社における神仏習合と神仏分離」  
河野 訓(文学部教授)
  - 25 日** 431教室  
第16回 高校生英語スピーチコンテスト
  - 31 土** 皇學館大学共催講座 近鉄文化サロン阿倍野  
1日・短期講習会 『莊子』を読む 松下信道(文学部准教授)

●各講座の詳細につきましては、本学ホームページにてご確認ください。  
●共催講座(近鉄文化サロン阿倍野)のみ、有料です。お問い合わせは近鉄文化サロン阿倍野(☎0120-106-718)へお願い致します。  
●佐川記念神道博物館教養講座は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは☎0596-22-6471へお願い致します。  
●研究開発推進センター史料編纂所公開講座・古文書講座は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは☎0596-22-6462へお願い致します。  
●みえアカデミックセミナー2015移動講座・三重県生涯学習センター×皇學館大学(三重テラス)は、事前の申込みが必要になります【先着順】。お問い合わせは、三重県生涯学習センター(☎059-233-1151)へお願い致します。  
●その他お問い合わせは、皇學館大学地域連携推進室(☎0596-22-8635)へお願い致します。

**編集後記**  
「2クマリオン効果」という言葉を聞いたことありますか?一九六四年に米国の教育心理学者ロバート・ロゼンタールが提唱した「一人間は期待された通りの成果を出す傾向がある」という主張です。長年、県リーグ下位を占めていた硬式野球部が全国大会初出場、初戦突破という快挙を成し遂げました。同部を率いていた森本進監督の「選手たちの可能性に寄り添えることが、監督の喜び」との言葉は、伸びる力を信じてくれることの大切さを教えてくれます。【企画部】

# プロに野球指導のコツ学ぶ

## ベースボール型授業の指導法講習会開催



「打つ」技能の習得に効果的な「ぶんくる体操」。腕を横に振り腰を回転する動きを学ぶ

「海の日」の七月二十日、日本野球機構教育学会により教員をめざす学生を対象にした「ベースボール型授業」の指導法講習会が行われ、元塚敏彦教授のゼミ生を中心に約五十名が参加。元読売ジャイアンツの平岡樹講師から指導法の秘訣を学んだ。

気象庁より東海の梅雨明けが発表された七月二十日、本学で「ベースボール型」授業の指導法講習会が行われた。これは、平成二十三年度より全面

実施された学習指導要領において、「ベースボール型」球技が小学校中・高学年の体育授業で必修化されたことを受け、教員をめざす学生に適切な指導法を学んでほしいと実施されたもの。講習会には元塚敏彦教育学科准教授のゼミ生を中心に約五十名が参加。元読売ジャイアンツ投手で現在はジャイアンツアカデミー(幼児から小学六年生までを対象にした野球教室)の指導員を務める平岡樹氏に講師として来ていただいた。

前半は、平岡講師が普段子どもに教える手順で学生を相手に実技指導。ウォーミングアップに続いて「捕る」「投げる」「打つ」といった基本技能の練習や試合形式のゲームを行った。平岡講師は安全管理における留意点のほか、「球を捕る時に

「バック」などの擬態語を使うと体の動きがイメージしやすい」「球を速く投げようとする子もいるので、相手が捕りやすい球を投げるのが大事だよ」と思いやりの観点から教えてね」等、具体例を挙げながら効果的な指導法を伝授。学生たちはわかりやすい解説に時折大きく頷きながら、熱心に耳を傾けた。

後半は第一グラウンドから七二二教室に移動。平岡講師の指導用教材やビデオを用いた講義を受け、

「ルールを簡素化したり遊びの要素を取り入れて、子どもたちが楽しく学べるようにすることが大事だと思った。作戦を立てたりすることで判断力や思考力が身に付くなど、さまざまな力を養える」とわかった」と感想を話した。小学校教員が目標という同学科三年の曾

け、要点を書きとめたり前半で習った指導法を再確認していた。

高校の体育教師をめざしているという教育学科二年の高木瑠くらさんは「ルールを簡素化したり遊びの要素を取り入れて、子どもたちが楽しく学べるようにすることが大事だと思った。作戦を立てたりすることで判断力や思考力が身に付くなど、さまざまな力を養える」とわかった」と感想を話した。小学校教員が目標という同学科三年の曾



勉強になったと話す曾我君(左)と高木さん

# 全三チームに活動費支給

## 「チャレンジプロジェクト」公開プレゼン

六月二十五日、四三二教室で「チャレンジプロジェクト」の公開プレゼンテーションが行われた。

平成27年度「チャレンジプロジェクト」企画  
名古屋科学館「生命ラボの実演」理科教材を使った地域貢献  
【採用】交付金額七万円 代表 大杉紗代(教育四年)

皇學館大学大学生テレビ局  
映像を通じた地域活性化  
【採用】交付金額十八万三千元 代表 花井祐士(現日三年)

宇治山田プロジェクト  
【採用】交付金額二十万円 代表 田畑美里(現日二年)

これは地域連携や学内活性化のために学生が主体となって行う活動を大学がサポートするもの。活動の目的や効果を検討したうえで、優れたプロジェクトには大学から活動資金(一件最高二十万円)が支給される。今年度は三チームから応募があり、厳正なる審査の結果、全プロジェクトへの資金交付が決まった。

「名古屋科学館・生命ラボの実演」チームの企画は、本学で開発した理科の実験教材を名古屋科学館で来場者に使用してもらうというもの。アウトウ血球の食作用の観察などについて説明し、メンバーの交通費等を申請した。続いて、「皇學館大学・大学生テレビ局」チーム。彼らは昨年度から活動しており、作成した映像は、ZTV伊勢放送局で放送され、YouTubeにもアップ



水消火器で実際の使い方を学ぶ

緊急地震速報を利用し避難訓練

地震による強い揺れが始まる数秒〜十数秒前に地震の発生を伝える「緊急地震速報」を利用した訓練が、七月二十三日のIV講時終了後、行われた。地震に伴い火災が起きた想定でアナウンスが流れると、学生や教職員は一斉に避難場所である九号館前の芝生広場へ避難。この速報システムの導入により地震到達前に机の下への避難や出口確保などの対応ができるようになった。また、伊勢市消防署職員の方に本学教職員による避難場所への誘導、消防署への電話通報、学生等の避難全般について確認及び講評をいただいたほか、水消火器を使用した訓練に学生十名が挑戦した。

二号館から避難したという学生は「避難してください」と言われても具体的にどうしたら良いかわからなかったため、普段から避難経路を把握しておくことが重要だと思った。また水消火器訓練に参加した学生は「消火器を使ったことが無く、使い方も知らなかったため、使い方がわかって良かった」と感想を話した。

# 真珠貝ではり絵アート

神宮徴古館・農業館 共催 夏休み親子教室

佐川記念神道博物館

親子教室」が今年も七月二十六日、八月七日の両日、神道博物館講義室で開催され、伊勢市とその周辺地域の幼児・小学生とその保護者計約百六十名が参加した。これは、神宮徴古館・農業館と佐川記念神道博物館の共催で平成七年から毎年行われているもの。

今年、ミキモト真珠博物館館長から「貝のお話」を聞いた後、好きなデザインを考えはり絵に挑戦。オリジナルのはり絵アートを作成した。

参加者たちは松月清郎真珠博物館館長から「貝のお話」を聞いた後、好きなデザインを考えはり絵に挑戦。オリジナルのはり絵アートを作成した。



細かい作業に真剣な面持ちの参加者たち

今年、ミキモト真珠博物館館長から「貝のお話」を聞いた後、好きなデザインを考えはり絵に挑戦。オリジナルのはり絵アートを作成した。

参加者たちは松月清郎真珠博物館館長から「貝のお話」を聞いた後、好きなデザインを考えはり絵に挑戦。オリジナルのはり絵アートを作成した。